

## 来週の市場とレート予想

	11/27(月)	11/28(火)	11/29(水)	11/30(木)	12/1(金)
無担保O/N			△0.086%	~ 0.001%	
銀行券	△100	△1,000	△1,000	△1,000	△2,000
財政他	△2,500	△1,000	△2,000	+5,000	△8,000
資金需給	△2,600	△2,000	△3,000	+4,000	△10,000
主な要因	国庫短期証券 発行・償還(3M)			国債発行(40年) 交付税特会借入・償還	
オペ期日	共通担保(全店) △1,300 CP等買入 △300 社債等買入 △100 国債補完供給 +200				成長基盤 △600
オペスタート	国債買入 +9,700 共通担保(全店) +2,200 ETF買入 +600	国債買入 +3,200 短国買入 +2,500 社債等買入 +800			
(日本)	企業向けサービス価格指数 (10月)		中曽日銀副総裁、講演 (金融懇話会)	原田日銀審議委員、講演 (福島市内) 当面の長期国債等の 買入の運営について 鉱工業生産指数(10月)	完全失業率(10月) CPI(全国10月、都区部11月) 有効求人倍率(10月)
(海外)	米 新築住宅販売件数(10月) 米 NY連銀総裁、講演	米 FHFA住宅価格指数(9月) 米 消費者信頼感指数(11月) 米パウエル次期FRB議長の 指名承認公聴会	米 中古住宅販売成約指数 (10月) 米 ベージュブック 米 イエレンFRB議長が上下両院 合同経済委員会で証言 米 NY連銀総裁、講演	米 新規失業保険申請件数 (25日終了週) 米 シカゴ製造業景況指数(11月) 欧 ユーロ圏CPI(11月、速報値) 欧 ユーロ圏失業率(10月)	米 ISM製造業景況指数 (11月) 欧 ユーロ圏製造業PMI (11月、改定値)

## 【インターバンク市場】

無担保ターム物	予想レンジ
SPOT 1M	△0.025 ~ 0.030
SPOT 2M	△0.025 ~ 0.040
SPOT 3M	△0.025 ~ 0.050
SPOT 6M	△0.010 ~ 0.080

## &lt;インターバンク&gt;

日銀当座預金残高は週初、362兆5,800億円から始まり、21日には、短期・国債買入オペを主因に364兆1,000億円まで増加した。その後は、財政等要因を主因に減少し、週末には362兆9,100億円となった。無担保コールON物は新積み期に入り、ビッドサイドが慎重な動きとなり、同加重平均金利は、週を通して△0.047~△0.054%のレンジで推移した。ターム物は1~2W物を中心に△0.04%台での取引が中心であった。

20日、米連邦準備理事会(FRB)のイエレン議長は、議長の任期満了を迎える2018年2月にあわせて理事も辞任すると表明した。イエレン氏は10年10月に理事に就任し、24年1月末まで任期が残っている。来週は、CPI(全国10月)(12月1日)、海外では、パウエル次期FRB議長の指名承認公聴会(28日)、ベージュブック(29日)などが予定されている。

## &lt;CP&gt;

今週の入札発行総額は約4,800億円で、週間償還額の約2,600億円(金融機関・ABCP除く)を上回った。5・10日発行で、商社・機械や鉄鋼業態等からまとまった金額の発行案件が見られた。今週末の発行残高は1兆5千億円を上回り、一般事業法人の残高増加が押し上げ要因となっている。発行レートは、ほぼ横這い推移で薄いマイナスから0%近辺での出会い。

来週の償還額は、月末日の償還(約9,700億円)があり、1兆3,900億円程度となっている。発行市場は、賞与資金手当ての発行や月末日スタートの案件が重なり、活況が予想される。発行レートは、投資家の運用ニーズが強く、引き続き薄いマイナスから0%近辺での出会いが予想される。27日に、CP等買入オペ(2,000億円程度)がオファーされる予定。

## &lt;TDB&gt;

22日に国庫短期証券3M723回債の入札が行われたが、最高落札レートは△0.2456%(前回債△0.2270%)、平均落札レートは△0.2538%(前回債△0.2382%)となり、前回債から利回りは低下した。セカンダリーでは、3M△0.255%近辺、6M△0.23%近辺、1Y△0.211%近辺での出会い。来週は30日に3Mの入札が行われる予定である。

## &lt;レポ&gt;

足許GCは週初△0.105~△0.11%から始まり、以降は小幅上昇となる展開。TDB3Mの発行日である27日受渡しは△0.10%近辺。週末には国庫短期証券・国債買入れオペがオファーされたが、レート水準に大きな変化はなく△0.095~△0.10%が出合いの中心となった。SC取引では10年348回債のbidが多く、週前半は△0.10%台半ば~後半。22日の国債買入オペ後△0.20%台前半~半ばに低下したが、週末には再度△0.10%台後半で多く取引された。他、2年380・381・382回債、5年131・132・133回債、10年336・338・340・341・342・346・347・348回債、20年161・162回債、30年55・56回債などに引合いが多く見られた。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。